

2012年度 環びわ湖大学・地域コンソーシアム 学生支援事業 (一泊二日研修) 報告

kizuna biwanchu ga tsunagu ma
絆 ~ 琵琶環人がつながる多
恵



発行日:2012年10月 発行:立命館大学

2012年度学生支援事業では、「絆 ー琵琶環人(びわんちゅ)がつながるま〜るい環ー」をスローガンに、県内13大学の学生70名(内、留学生19名)と教職員16名の合計86名が参加しました。

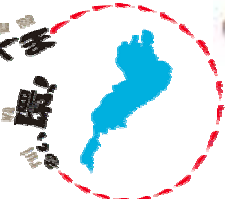
1日目は沖島で、**清掃ボランティア**・**地引網体験**・**植樹**を行い**西福寺の住職より沖島の歴史について**お話いただきました。地引網体験では、地元の漁業組合の方にご協力いただき全員で網を引っ張る昔ながらの漁業を体験をさせていただきました。とれた魚のほとんどがブラックバスやブルーギルの外来種で、これらが琵琶湖の生態系に及ぼす影響力を肌で感じました。また地元方と一緒に、金木犀とサザンカを小学校の校庭に植えました。

2日目は、「新海浜清掃・フットサル・ガラス細工体験」と「近江八幡散策と水茎焼体験」の2コースに分かれて活動する予定でしたが、あいにく台風の影響で暴風雨だったため、全員で**水茎焼体験**を行いました。

1日目の夜には、学生交流企画として1日目の総括と、担当学生による滋賀県に関するクイズ等で交流を深めました。2日目の朝は、全員で琵琶湖検定に挑戦し、今まで知らなかった滋賀の魅力を感じることができました。今回の1泊2日研修を通して、学生が感じた沖島や滋賀県への想いをまとめ、

12月15日に開催される環びわ湖・大学地域交流フェスタ2012で報告を行います。





参加して感じる満足度は、昨年度の73.6%と比べて、81%と向上している。沖島での、地元の方を含めた体験や交流が好評だったことや、学生交流企画がきっちり準備されていたことが要因と考えられる。

【スローガンにふさわしい研修ができたか？】

他大学に新しい友達が出来たり、留学生の人と交流して、自文化について語り合えてとても楽しかった。そして、自分が日本文化についての知識が乏しいことに気付けた (F1年) 班が変わりすぎて、仲良くなる前に分かれてしまうパターンが多く、絆という面があまりなかった (M3年)

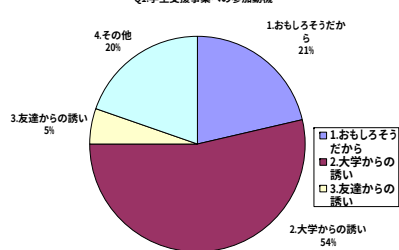


絆 琵琶湖人がつなぐま〜るい環

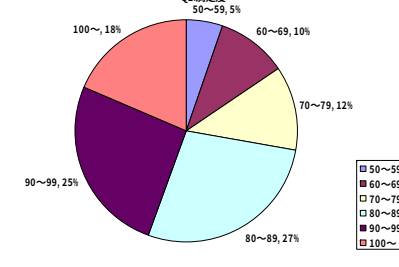
【滋賀県への関心は深まったか？】

普段滋賀県の人と交流することがないので、色々なことが学べてもっと滋賀について知りたいと思った (F1年) 琵琶湖検定がよかった (M3年) 滋賀名産のものが食べれて良かった (M3年) 県民でも知らないことなどたくさんあった (F1年) びわ湖にあんなに多くの食べれる魚がいるとは知らなかったので知れて良かった (M1年) 今まで関心のなかった沖島について考えられた (M2年) 新しく関心の出るようなものはなかった (F1年) 沖島で感じた雰囲気や感動を伝えたいと思う (F3年)

Q1 学生支援事業への参加動機



Q2 満足度



【意見や感想】

自己紹介冊子が良かった (M3年) 少人数の相部屋でなく多人数で良いと思う。 (F3年) 人数が多すぎる気がした (F4年) ボランティア関係の友人を作ろうと参加したが、結局良く分からないまま終わってしまって残念 (F1年) 会議の参加率を増やして、1大学に1人は必ず参加するようにしたほうが良いと思う (M3年) もう一度増えればよかった (M3年) 昨年とは違い、テーマがしっかりしていた (F2年)

【今後取り入れれば良い企画は？】

交流会のすごろくは今後も続けて欲しい (M4年) フローティングスクール (うみのこに乗る) (M3年) 沖島と他の町の違いを見つけ、近づける方法を考える企画 (M2年) 歴史の知識を教えて欲しい (F4年) 行政との連携を強め、行政ならではの視点から滋賀を見定める (M2年) 続けられるもの (よそのコロッケを学祭で販売する) があると良い (F1年) 自分の大学自慢大会! (F2年) 清掃活動や、植樹の映像をニュース番組に取り上げてもらう (F3年)